

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和 6 (2024) 年 8 月号

編 集 武田 隆久  
発 行 人 〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15  
一般社団法人 日本病院会 事業部教育課  
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)  
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)  
URL <https://jha-e.jp/>  
受付時間 10:00~17:00  
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)  
発 行 日 毎月 1 日

## 「医療の質向上に向けた取り組み」から DPC データの利活用へ

伏見 清秀

東京医科歯科大学\* 医療政策情報学分野 教授  
DPC コース小委員会 委員

令和 6 年度の診療報酬改定で、DPC の機能評価係数Ⅱに、「医療の質向上に向けた取り組み」の評価が導入されました。従来からの「病院情報の公表」に加えて、「医療の質指標の公表」と「医療の質評価に係るデータの提出」が評価項目に入りました。私たち厚生労働科学 DPC 研究班では、長年にわたって、DPC データを用いた医療の質評価の実践の重要性を示してきましたので、一部ではありますがそれが制度化されたことには、万感の思いがあります。

DPC 研究班では、約 1600 病院のご協力をいただいて、年間約 800 万件、14 年分ほどのビッグデータを分析させていただいています。DPC データには患者背景情報、入退院情報、診断情報、手術情報、薬剤・特定保険医療材料、検査・処置等の日別データが含まれ、これら詳細な情報には様々な医療評価の可能性が秘められています。DPC データ分析では、効率性指標、複雑性指標などの機能評価係数などにも用いられているケースミックス分析、クオリティ・インディケータの開発や臨床疫学研究につながる診療プロセス/アウトカム分析、地域医療構想策定の基礎ともなっている地域医療分析など多くの手法が開発されています。

OECD の医療レポートでは、我が国では、医療の質の評価が適切に制度化されていないことが指摘されてきました。皆さんの医療機関でも、医療安全に関する取り組みは積極的に進められていると思いますが、自分たちが提供する医療の質の評価を積極的に実施しているところは少ないのではないのでしょうか。近年社会問題化した高機能医療機関での腹腔鏡手術後の死亡多発事例などは、このような我が国の医療の弱点が露呈したものと捉えられます。

今年度の医療の質評価の仕組みの制度化は、我が国の医療の質を確保する取り組みの第一歩となるものと確信しています。特に DPC データなどの医療データを用いた分析と評価が重要になると思います。この点で診療情報管理士の役割がとても大きいことに異論はないでしょう。医療機関内での DPC データ分析は、単に、今年度の機能評価係数への対応にとどまらせるのではなく、柔軟に拡張できるように準備しておくことが必要と思います。医療の質指標はさらに追加されるかもしれません。また、単に制度対応だけでなく、自主的に自分たちの医療を自己評価する文化を醸成していくことも重要です。診療情報管理士の活躍の場がさらに広がることを期待しています。

\*2024 年 10 月 1 日より東京科学大学に校名変更